

第22回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会 「生物多様性インベントリーの活用と自然史標本の文化財化」

このたびの研究会は、日本の生物多様性インベントリーとその活用について以下の2部構成により開催します。博物館における自然史標本の活用とその未来の在り方について、関心のある方のご参加をお待ちしております。第1部では、海域の魚類を中心としたインベントリー調査の現状とその成果の活用について、瀬戸内海、大阪湾、東京湾をテーマとして話題を提供していただきます。この調査が、どのような体制で推進され、結果がどのように活用されているのかという観点から議論できればと考えています。第2部では、インベントリー成果としての標本の管理と継承の問題をとりあげます。これらの調査標本は未来においても重要な証拠資料となりますが、その維持管理体制は歴史的な文化財に比べると決して十分ではありません。これは、自然史標本の有する社会資本としての価値が法制度のなかできちんと定義されていないことがその一因です。この課題を解決するために、現在日本学術会議において自然史標本の文化財化が検討されています。この検討の中間報告として話題提供して頂くとともに、現場を預かる博物館学芸員との意見交換の場にしたいと考えています。

日時：2014年2月17日（月） 14:00～17:30

会場：大阪市立自然史博物館 集会室（南側通用口から入館ください）

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

主催：特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク、国立科学博物館、大阪市立自然史博物館

参加費：無料（要申込み）

申込み先：大阪市立自然史博物館 波戸岡清峰宛（[hatooka\(at\)mus-nh.city.osaka.jp](mailto:hatooka@mus-nh.city.osaka.jp) : (at)を@に書き換えてください）まで、氏名、所属、連絡先等を明記の上、電子メールにてお申し込みください。

締切り：2014年2月10日（月）まで

内容：

第1部 海洋生物多様性インベントリーとその活用

- ① 瀬戸内海インベントリーに向けて（瀬戸内海生物資料の現状）
清水孝昭（愛媛県水産研究センター栽培資源研究所）
- ② 大阪湾における生物資料とその展示への活用事例（大阪湾特別展）
波戸岡清峰・石田惣（大阪市立自然史博物館）
- ③ 魚類インベントリーに基づく東京湾における環境評価
工藤孝浩（神奈川県水産技術センター）

第2部 自然史標本の文化財化にむけて

① 自然史財認定・登録と国立自然史博物館設立の提案

馬渡駿介（北海道大学名誉教授）

② 文化財的価値、生物多様性サービス、自然史標本の間係を再検討する

佐久間大輔（大阪市立自然史博物館）

※本プログラムの一部は科学研究費基盤研究(A)「自然史系博物館等の広域連携による『瀬戸内海の自然探求』事業の実践と連携効果の実証」（課題番号 24240113）の研究会として開催します。

以上

■ この件に関する連絡先

大阪市立自然史博物館 波戸岡清峰

hatooka(at)mus-nh.city.osaka.jp

兵庫県立人と自然の博物館 三橋弘宗

hiromune(at)hitohaku.jp